

関東支部 特別企画「日本科学未来館」見学記

11月2日（水）14時から、静商同窓会関東支部の特別企画「科学未来館の見学」が行われました。（場所は、お台場のゆりかもめ東京テレコムセンター駅近く）

昨年の「JAXA 相模原キャンパス」の見学に続いて、アカデミックな企画ということで、14名が参加。「ドームシアターでの3D映像による宇宙の誕生物語」や「人型ロボットのアシモ」「宇宙の謎に迫るスーパーカミオカンデの仕組み」「国際宇宙ステーション（ISS）での生活」などの常設展示に加え「ひまわり9号の発射中継」を見るなど、大人にも十分に楽しめる内容があり、2時間にわたる見学は、普段の生活と異なるアカデミックな刺激に満ちていました。（個々の場面の説明や感想は写真の下に記述）

終了後は新橋に戻り、いつもの楽しい懇親会を開いて見学会を終了しました。



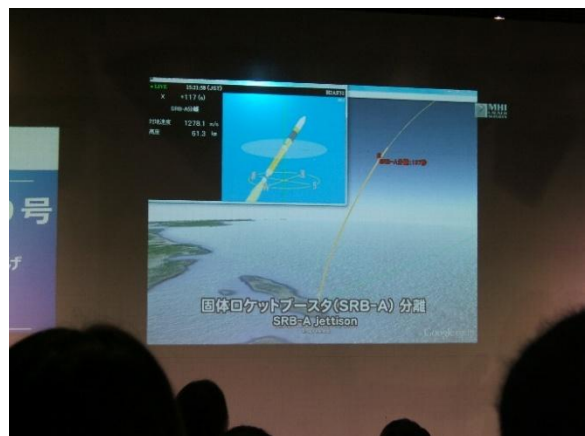
・東京テレコムセンター駅に集合



・アシモは、歩行だけでなく、走ることやケンケン、ボールキックや手話を交えての歌などを披露してくれた。



・4階の国際宇宙ステーションの居住棟 解説員の説明を聞く。興味深かったのは、トイレ。用をたした時に空間に飛び散らないよう一人一人に合わせた吸い口を使って吸引するのだそうだ。睡眠をとるための個室では、重力がないので立ったまま寝袋状の寝床で眠る。



・ひまわり9号の発射中継

Google Earth 上に軌道が描かれ、その上を予定通り飛んでいることが示されている。面ではなく、3次元の位置情報を処理できるとは、最新技術は素晴らしい。

ドームシアターガイア



- ・ドームシアターにて、「宇宙の誕生物語」を3Dの映像で見る。
 - ・地球と月の成り立ち。
 - ・太陽系の成り立ち
 - ・銀河系の成り立ち
 - ・宇宙の成り立ち
- を説明してくれる。参加者は、「スケールが大きすぎて・・・」と。



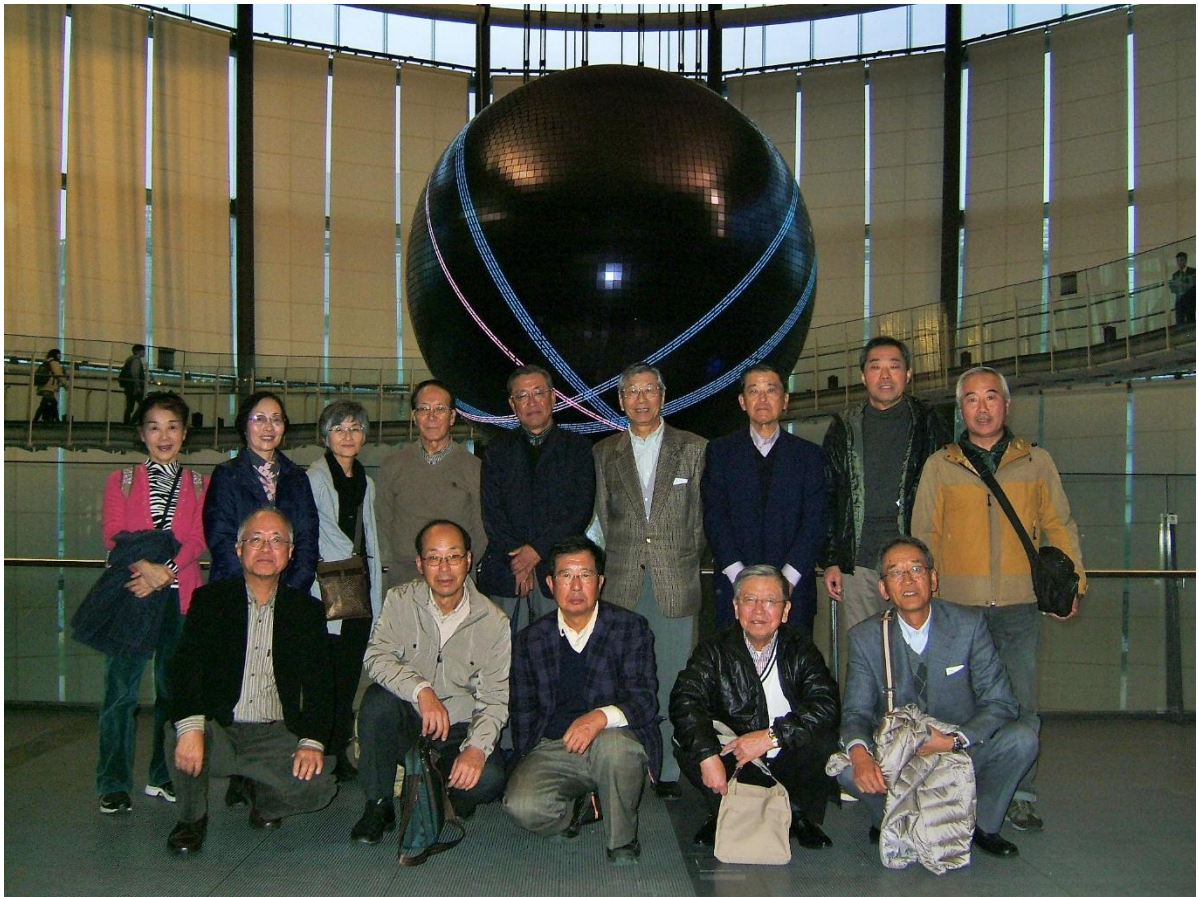
- ・4階に展示されている、予想外に小さい高出力のH2Aロケットのエンジン。燃料は液体酸素と液体水素だが、個体燃料ロケットをブースターとして使うので、小さくできるのだろう。



- ・宇宙から飛来する陽子崩壊ニュートリノの観測用、スーパーカミオカンデのミニチュアが展示されているが、小柴教授のノーベル賞を支えた技術を浜松の企業（浜松ホトニクスという会社）が支えている。



- ・金色に輝く浜松ホトニクス社の光電子増倍管（一般的なサイズの10倍の大きさで、素晴らしく感度が良い）が展示されていた。ニュートリノがカミオカンデの純水の原子とぶつかって発せられるチェレンコフ光という微弱な光を、電気信号に変えるのだが、「微弱な光を逃さず → 微弱な電気信号に変え → 増倍された電気信号にして取り出す」をこの一つで受け持っている。



・見学を終わって、Geo-Cosmos をバックに参加者全員で記念撮影

見学記記述：45年卒 大石 倫義